

認 定 書

国住参建第 1511 号
令和 3 年 10 月 11 日

竹村工業株式会社
代表取締役社長 鹿養 広司 様

国土交通大臣 齊藤 鉄夫



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第三号（屋根：各 30 分間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FP030RF-1999(2)
2. 認定をした構造方法等の名称
葺材 [ステンレス鋼板製、めっき鋼板製、チタン板製、銅板製又はアルミニウム合金製]・硬質木毛セメント板・フェノールフォーム板・人造鉱物繊維断熱材表張／軽量鉄骨下地屋根
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名

葺材〔ステンレス鋼板製、めっき鋼板製、チタン板製、銅板製又はアルミニウム合金製〕・硬質木毛セメント板・フェノールフォーム板・人造鉱物繊維断熱材表張／軽量鉄骨下地屋根

2. 寸法及び形状等

(寸法単位：mm)

項目	仕様
厚さ	62.9以上
母屋間隔	910以下

3. 材料構成

1) 主構成材料

(寸法単位：mm)

項目	仕様
1 屋根葺材	[1] 基材 (1)～(26)のうち、いずれか一仕様とする (1) 溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板 ・規格 JIS G 3321 ・厚さ 0.35～1.2 (2) 溶融亜鉛－5%アルミニウム合金めっき鋼板 ・規格 JIS G 3317 ・厚さ 0.35～1.2 (3) 溶融亜鉛めっき鋼板 ・規格 JIS G 3302 ・厚さ 0.35～2.3 (4) 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板 ・規格 JIS G 3322 ・厚さ 0.35～1.2 (5) 塗装溶融亜鉛－5%アルミニウム合金めっき鋼板 ・規格 JIS G 3318 ・厚さ 0.35～1.2 (6) 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 ・規格 JIS G 3312 ・厚さ 0.35～1.2 (7) 電気亜鉛めっき鋼板 ・規格 JIS G 3313 ・厚さ 0.35～2.3 (8) 塗装ステンレス鋼板 ・規格 JIS G 3320 ・厚さ 0.35～0.8 (9) 熱間圧延ステンレス鋼板 ・規格 JIS G 4304 ・厚さ 0.35～2.0 (10) 冷間圧延ステンレス鋼板 ・規格 JIS G 4305 ・厚さ 0.35～2.0 (11) 溶融アルミニウムめっき鋼板 ・規格 JIS G 3314 ・厚さ 0.35～2.0 (12) 耐熱鋼板 ・規格 JIS G 4312 ・厚さ 0.35～2.0

項目	仕様
1 屋根葺材 (つづき)	(13) チタン展伸材 ・規格 JIS H 4600 ・厚さ 0.3～2.0 (14) 銅板 ・規格 JIS H 3100 ・厚さ 0.3～3.5 (15) アルミニウム合金押出形材 ・規格 JIS H 4100 ・厚さ 1.0以上 (16) 両面ポリエステル樹脂系塗装/アルミニウムめっき鋼板 (国土交通大臣認定：NM-9583、NM-9584) ・厚さ 0.35～1.2 (17) フッ素樹脂系塗装/裏面ポリエステル樹脂系塗装/アルミニウムめっき鋼板 (国土交通大臣認定：NM-9662) ・厚さ 0.35～1.2 (18) 両面ポリエステル樹脂系塗装/溶融アルミニウムめっき鋼板 (国土交通大臣認定：NM-1863) ・厚さ 0.35～1.2 (19) 塗装/亜鉛めっき鋼板 (国土交通大臣認定：NM-8697) ・厚さ 0.35～1.2 (20) 両面ポリエステル樹脂系塗装/亜鉛めっきステンレス鋼板 (国土交通大臣認定：NM-9673) ・厚さ 0.4～0.8 (21) ポリエステル樹脂系塗装/チタン亜鉛合金板張/亜鉛めっき鋼板 (国土交通大臣認定：NM-9425) ・厚さ 0.8～2.5 (22) カラーアルミ (国土交通大臣認定：NM-8597、NM-8598) ・厚さ 0.4以上 (23) 無機質断熱材裏張・金属 (国土交通大臣認定：NM-8673) ・金属板厚 0.35以上 (24) チタン亜鉛合金 ・規格 EN988 ・厚さ 0.5～1.5 (25) 合成樹脂塗装チタン亜鉛合金 ・規格 EN988 ・厚さ 0.5～1.5 (26) アルミニウム (平成12年建設省告示第1400号) ・厚さ 0.4以上

項目	仕様
1 屋根葺材 (つづき)	[2] 塗装 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) なし (2) あり (基材は(4)～(15)、(24)～(26)の場合に限る) 1)～9)のうち、いずれか一仕様又は組み合わせとする 1) ポリエステル系樹脂 2) フッ素系樹脂 3) エポキシ系樹脂 4) ウレタン系樹脂 5) アクリル系樹脂 6) アミノ・アルキド系樹脂 7) 塩化ビニル系樹脂 8) シリコン系樹脂 9) ポリウレタン系樹脂 ・塗布量 124g/㎡以下 ・有機質量 124g/㎡以下 [3] 形状 (1)～(12)のうち、いずれか一仕様とする (1) 立平葺き (働き幅200～850、山高さ15以上) (2) 横葺き (働き幅200～675、山高さ3以上) (3) 瓦棒葺き (働き幅200～675、山高さ15以上) (4) 折板葺き (働き幅200～675、山高さ15以上) (5) かん合式瓦棒葺き (働き幅200～675、山高さ15以上) (6) かん合式瓦棒葺き(丸棧) (働き幅200～675、山高さ15以上) (7) 本体押え込み縦葺き (働き幅200～675、山高さ15以上) (8) かん合式立ちハゼ葺き (働き幅200～675、山高さ15以上) (9) キャップ一体型かん合式立ちハゼ葺き (働き幅200～675、山高さ15以上) (10) 円筒葺き (働き幅200～675、山高さ15以上) (11) 平葺き (働き幅200～850、山高さ3以上) (12) 菱葺き (働き幅374以上、山高さ3以上) (別添-11、12参照)

項目	仕様																
1 屋根葺材 (つづき)	[4] 裏打材 (1)～(3)のうち、いずれか一仕様とし、基材に張るか基材の下に敷き込む (1) なし (2) ブチルゴム系テープ ・質量 $1.45 \pm 0.15 \text{ kg/m}^2$以下 (有機質量 $0.55 \pm 0.06 \text{ kg/m}^2$以下) ・厚さ 1 ± 0.1以下 (3) ポリエチレンフォーム ・厚さ 4以下 ・質量 0.11 kg/m^2以下 (有機質量 0.11 kg/m^2以下) ・組 成(質量%) <table border="0"> <tr> <td>ポリエチレン樹脂</td><td>39.0 ± 3.0</td></tr> <tr> <td>水酸化アルミニウム</td><td>38.0 ± 2.0</td></tr> <tr> <td>デカブロモジフェニルエーテル</td><td>12.0 ± 1.5</td></tr> <tr> <td>三酸化アンチモン</td><td>6.0 ± 0.7</td></tr> <tr> <td>有機チタン化合物</td><td>2.0 ± 0.05</td></tr> <tr> <td>金属脂肪酸塩</td><td>1.5 ± 0.05</td></tr> <tr> <td>酸化亜鉛</td><td>1.0 ± 0.05</td></tr> <tr> <td>有機系酸化防止剤</td><td>0.5 ± 0.03</td></tr> </table>	ポリエチレン樹脂	39.0 ± 3.0	水酸化アルミニウム	38.0 ± 2.0	デカブロモジフェニルエーテル	12.0 ± 1.5	三酸化アンチモン	6.0 ± 0.7	有機チタン化合物	2.0 ± 0.05	金属脂肪酸塩	1.5 ± 0.05	酸化亜鉛	1.0 ± 0.05	有機系酸化防止剤	0.5 ± 0.03
ポリエチレン樹脂	39.0 ± 3.0																
水酸化アルミニウム	38.0 ± 2.0																
デカブロモジフェニルエーテル	12.0 ± 1.5																
三酸化アンチモン	6.0 ± 0.7																
有機チタン化合物	2.0 ± 0.05																
金属脂肪酸塩	1.5 ± 0.05																
酸化亜鉛	1.0 ± 0.05																
有機系酸化防止剤	0.5 ± 0.03																
2 キャップ	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) なし (2) あり (1) 屋根葺材-[3]形状(3)～(8)に限る) [1] 基材 (1) 屋根葺材-[1]基材と同じ [2] 塗装 (1) 屋根葺材-[2]塗装と同じ [3] 形状 1)～6)のうち、いずれか一仕様とする 1) 瓦棒葺き 2) 折板葺き 3) かん合式瓦棒葺き 4) かん合式瓦棒葺き(丸棧) 5) 本体押え込み縦葺き 6) かん合式立ちハゼ葺き (別添-11、12参照) [4] 表面処理 (基材(15)アルミニウム合金押出型材、(26)アルミニウムの場合に限る) ・材質 アルマイト																

項目	仕様																								
3 吊子	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) なし (②防水材-(4)ブチルゴム系シートに限る) (2) あり [1] 基材 ① 屋根葺材-[1] 基材と同じ [2] 塗装 ① 屋根葺材-[2] 塗装と同じ [3] 間隔 1)～11)のうち、いずれか一仕様とする <table border="0"> <tr><td>1) 立平葺き</td><td>1287以下又は通し</td></tr> <tr><td>2) 横葺き</td><td>1287以下又はなし</td></tr> <tr><td>3) 瓦棒葺き</td><td>1287以下又は通し</td></tr> <tr><td>4) 折板葺き</td><td>1287以下</td></tr> <tr><td>5) かん合式瓦棒葺き</td><td>1287以下又は通し</td></tr> <tr><td>6) かん合式瓦棒葺き(丸棧)</td><td>1287以下又は通し</td></tr> <tr><td>7) 本体押え込み縦葺き</td><td>1287以下又は通し</td></tr> <tr><td>8) かん合式立ちハゼ葺き</td><td>1287以下又は通し</td></tr> <tr><td>9) キャップ一体型かん合式立ちハゼ葺き</td><td>1287以下又は一体型</td></tr> <tr><td>10) 円筒葺き</td><td>1287以下</td></tr> <tr><td>11) 平葺き</td><td>1287以下又はなし</td></tr> <tr><td>12) 菱葺き</td><td>1287以下又はなし</td></tr> </table> [4] 形状(ピース又は通し) 1)～10)のうち、いずれか一仕様とする 1) 仕様-1(立平葺きの場合) 2) 仕様-2(横葺きの場合) 3) 仕様-3(瓦棒葺きの場合) 4) 仕様-4(折板葺きの場合) 5) 仕様-5(かん合式瓦棒葺き、かん合式瓦棒葺き(丸棧)、本体押え込み縦葺きの場合) 6) 仕様-6(かん合式立ちハゼ葺きの場合) 7) 仕様-7(キャップ一体型かん合式立ちハゼ葺きの場合) 8) 仕様-8(円筒葺きの場合) 9) 仕様-9(平葺きの場合) 10) 仕様-10(菱葺きの場合) (別添-11、12参照) [5] 寸法 (ピースの場合) 40_{±5}以上 (別添-11、12参照) [6] 表面処理 (基材(15)アルミニウム合金押出型材、(26)アルミニウムの場合に限る) ・材質 アルマイト	1) 立平葺き	1287以下又は通し	2) 横葺き	1287以下又はなし	3) 瓦棒葺き	1287以下又は通し	4) 折板葺き	1287以下	5) かん合式瓦棒葺き	1287以下又は通し	6) かん合式瓦棒葺き(丸棧)	1287以下又は通し	7) 本体押え込み縦葺き	1287以下又は通し	8) かん合式立ちハゼ葺き	1287以下又は通し	9) キャップ一体型かん合式立ちハゼ葺き	1287以下又は一体型	10) 円筒葺き	1287以下	11) 平葺き	1287以下又はなし	12) 菱葺き	1287以下又はなし
1) 立平葺き	1287以下又は通し																								
2) 横葺き	1287以下又はなし																								
3) 瓦棒葺き	1287以下又は通し																								
4) 折板葺き	1287以下																								
5) かん合式瓦棒葺き	1287以下又は通し																								
6) かん合式瓦棒葺き(丸棧)	1287以下又は通し																								
7) 本体押え込み縦葺き	1287以下又は通し																								
8) かん合式立ちハゼ葺き	1287以下又は通し																								
9) キャップ一体型かん合式立ちハゼ葺き	1287以下又は一体型																								
10) 円筒葺き	1287以下																								
11) 平葺き	1287以下又はなし																								
12) 菱葺き	1287以下又はなし																								

項目	仕様
4 タイトフレーム	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)なし (2)あり ①屋根葺材-[3]形状-(4)、(10)に限る) [1]基材 ①屋根葺材-[1]基材と同じ [2]塗装 ①屋根葺材-[2]塗装と同じ [3]間隔 1287以下
5 野地板	[1]と[2]および[2]と[3]を[4]で貼り合わせた複合板 [1]硬質木毛セメント板(国土交通大臣認定:QM-9022) ・規格 JIS A 5404 ・厚さ 20～30 ・長さ 1820以下 ・幅 910以下 ・密度 1.0g/cm³以上 [2]フェノールフォーム板 ・規格 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)JIS A 9511 (2)JIS A 9521 ・組成(質量%) (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)フェノール系樹脂(レゾール系樹脂) 100 発泡剤(炭化水素) 5_{±2}(外割) (2)フェノール系樹脂(レゾール系樹脂) 100 発泡剤(炭化水素とHF0の混合) 5_{±2}(外割) (炭化水素は5_{±2}以下) ・厚さ 30～100 ・長さ 1820以下 ・幅 910以下 ・密度 29_{±3}～41_{±4}kg/m³ ・面材 (1)～(4)のうち、いずれか一仕様とする (1)ポリエステル不織布 ・有機質量 30_{±3}g/m²(両面) (2)ポリプロピレン不織布 ・有機質量 30_{±3}g/m²(両面) (3)ポリエチレン加工紙 ・有機質量 30_{±3}g/m²(両面) (4)アルミニウムはく

項目	仕様
5 野地板 (つづき)	[3] ポリエチレンフィルム表層ライナー紙 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) なし (2) あり ・ 厚さ $1.03_{\pm 0.1}$以下 ・ 質量 $760_{\pm 76}\text{g}/\text{m}^2$以下 (有機質量 $760_{\pm 76}\text{g}/\text{m}^2$以下) ・ 構成 1) ポリエチレンフィルム(両面) ・ 厚さ $0.03_{\pm 0.003}$以下 ・ 質量 $20_{\pm 2}\text{g}/\text{m}^2$以下 (有機質量 $20_{\pm 2}\text{g}/\text{m}^2$以下) 2) ライナー紙 ・ 厚さ $1.0_{\pm 0.1}$以下 ・ 質量 $740_{\pm 74}\text{g}/\text{m}^2$以下 (有機質量 $740_{\pm 74}\text{g}/\text{m}^2$以下) [4] 接着剤：酢酸ビニル系 ・ 塗布量 $250\text{g}/\text{m}^2$以下 (有機質量 $90\text{g}/\text{m}^2$以下)
6 裏張材	人造鉱物繊維断熱材 1)～3)のうち、いずれか一仕様とする 1) ロックウール吸音板 (国土交通省大臣認定：NM-8599) ・ 厚さ 9～20 ・ 密度 $300_{\pm 30} \sim 500_{\pm 50} \text{ kg}/\text{m}^3$ 2) グラスウール保温板 (国土交通省大臣認定：NM-8605) ・ 厚さ 15～50 ・ 密度 $80 \sim 96\text{kg}/\text{m}^3$ 3) 化粧グラスウール保温板 (国土交通省大臣認定：NM-8610) ・ 厚さ 15～50 ・ 密度 $80 \sim 96\text{kg}/\text{m}^3$ ・ 外被 ガラス不織布、片面貼り付け(目付$40_{\pm 4}\text{kg}/\text{m}^3$)
7 下地鉄板	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) なし (2) あり ・ 材質 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする 1) 塗装/亜鉛めっき鋼板 (国土交通大臣認定：NM-8697) 2) 塗装ステンレス鋼板 (国土交通大臣認定：NM-8321、NM-8316) ・ 厚さ 0.27以上

2)副構成材料

(寸法単位：mm)

項目	仕様
①留付け材	[1]屋根葺材留付け用 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)タッピンねじ(吊子を使用しない場合) ・寸法 $\phi 3.8$以上×L32以上 ・間隔 1287以下 ・材質 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする 1)鉄 2)ステンレス (2)なし(吊子を使用する場合、又は②防水材-(4)ブチルゴム系シートの場合) [2]吊子及びタイトフレーム留付け用 (1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1)なし(吊子を使用しない場合) (2)タッピンねじ(吊子を使用する場合) ・寸法 $\phi 3.8$以上×L32以上 ・間隔 1287以下 ・材質 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする 1)鉄 2)ステンレス (3)ブチルゴム系テープ(②防水材-(4)ブチルゴム系シートの場合) ・質量 $1.45_{\pm 0.15}\text{kg/m}^2$以下 ・厚さ $1_{\pm 0.1}$以下 [3]野地板留付け用 ドリリングタッピンねじ ・寸法 $\phi 5$以上×L70以上 ・間隔 440以下 ・材質 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする 1)鉄 2)ステンレス [4]防水材留付け用 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)ステーブル ・寸法 幅9.6以上×足長10以上 ・材質 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする 1)鉄 2)ステンレス (2)なし [5]下地鉄板留付け用 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)ドリリングタッピンねじ ・寸法 $\phi 4$以上×L32以上 ・間隔 1000以下 ・材質 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする 1)鉄 2)ステンレス (2)なし

項目	仕様
②防水材	(1)～(4)のうち、いずれか一仕様とする (1) ゴムアスファルトシート ・質量 3833g/㎡以下 ・厚さ 1.0～3.0 (2) アスファルトルーフィングフェルト ・規格 JIS A 6005 ・質量 1625g/㎡以下 ・厚さ 0.6～1.5 (3) 合成高分子系ルーフィングシート ・規格 JIS A 6008 ・質量 2750g/㎡以下 ・厚さ 1.2～2.0 (4) ブチルゴム系シート ・質量 3300g/㎡以下 ・厚さ 2.4以下
③裏張材用接着剤	酢酸ビニル系接着剤 ・塗布量 250g/㎡以下 (有機質量 90g/㎡以下)
④プライマー	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) なし (2) あり ・材質 ブチルゴム系 ・塗布量 $200_{\pm 20}$g/㎡以下 (有機質量 $24_{\pm 5}$g/㎡以下)
⑤絶縁用テープ	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) なし (2) あり ・材質 クラフトテープ ・寸法 幅$50_{\pm 5}$以下
⑥ジョイナー	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) なし (2) あり [1] 基材 ・形状 T型(材質が1)～8)の場合、折り曲げ材とし、9)の場合は押出型材とする) ・幅 30～40 ・高さ 9～13 ・材質 1)～9)のうち、いずれか一仕様とする 1) 溶融亜鉛めっき鋼板 ・規格 JIS G 3302 ・厚さ 0.27～0.4 2) 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 ・規格 JIS G 3312 ・厚さ 0.27～0.4 3) 熱間圧延ステンレス鋼板 ・規格 JIS G 4304 ・厚さ 0.3～0.4 4) 冷間圧延ステンレス鋼板 ・規格 JIS G 4305 ・厚さ 0.3～0.4

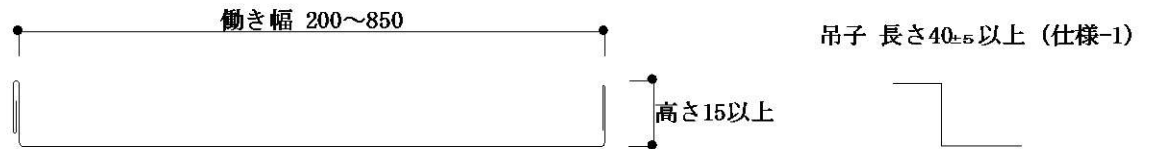
項目	仕様
⑥ジョイナー (つづき)	5) 耐熱鋼板 ・規格 JIS G 4312 ・厚さ 0.3～0.4 6) 塗装ステンレス鋼板 ・規格 JIS G 3320 ・厚さ 0.3～0.4 7) 溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板 ・規格 JIS G 3321 ・厚さ 0.27～0.4 8) 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板 ・規格 JIS G 3322 ・厚さ 0.27～0.4 9) アルミニウム合金押出型材 ・規格 JIS H 4100 ・厚さ 1.0 [2] 塗装 ①屋根葺材-[2] 塗装と同じ [3] 表面処理 (基材9) アルミニウム合金押出型材の場合に限る) ・材質 アルマイト

4. 構造説明図

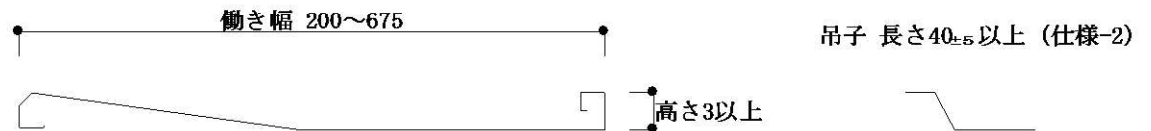
(寸法単位：mm)

[屋根葺材断面図]

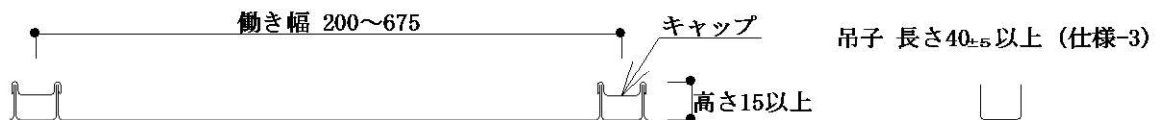
(1) 立平葺き



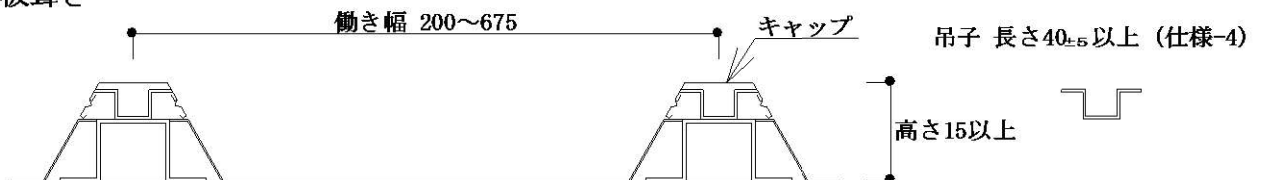
(2) 横葺き



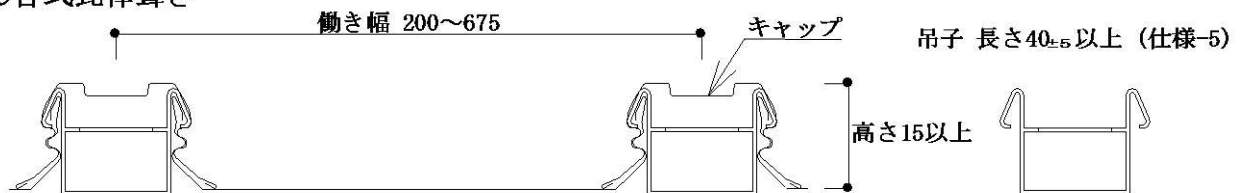
(3) 瓦棒葺き



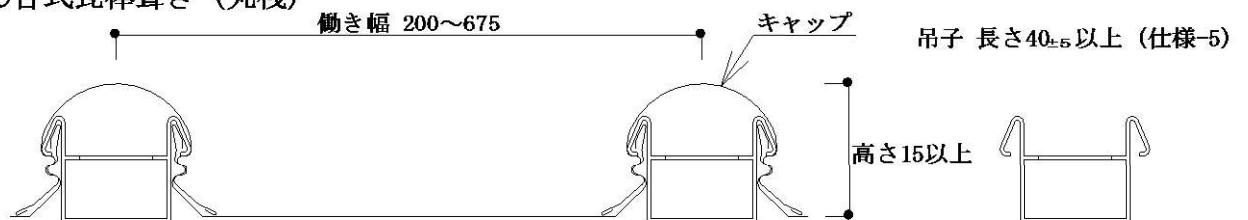
(4) 折板葺き



(5) かん合式瓦棒葺き



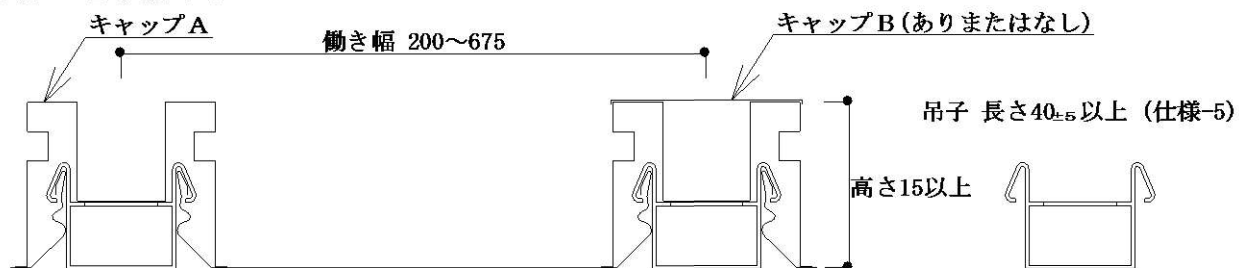
(6) かん合式瓦棒葺き (丸栈)



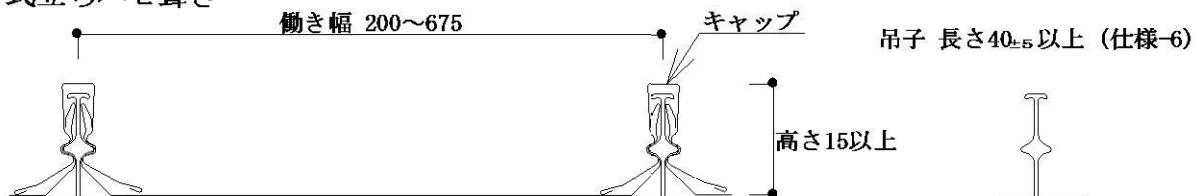
注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

(寸法単位：mm)

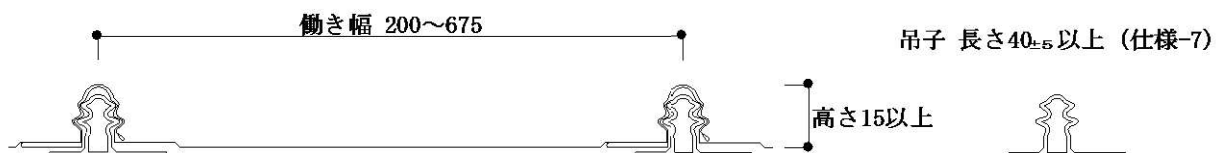
(7) 本体押え込み縦葺き



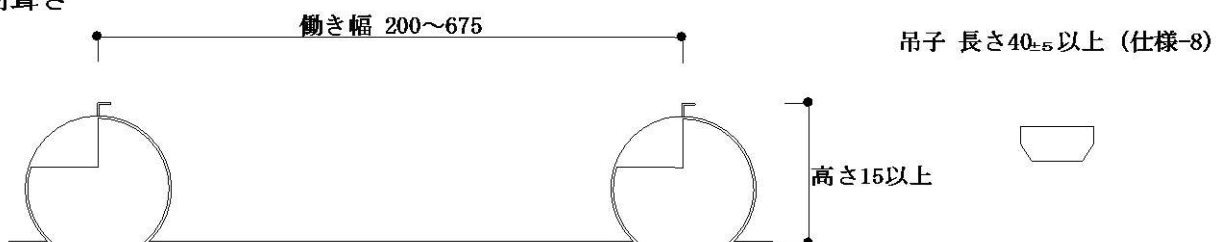
(8) かん合式立ちハゼ葺き



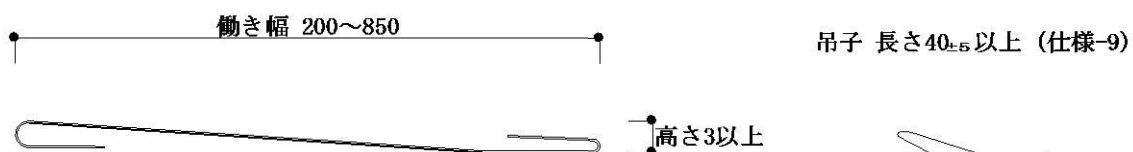
(9) キャップ一体型かん合式立ちハゼ葺き



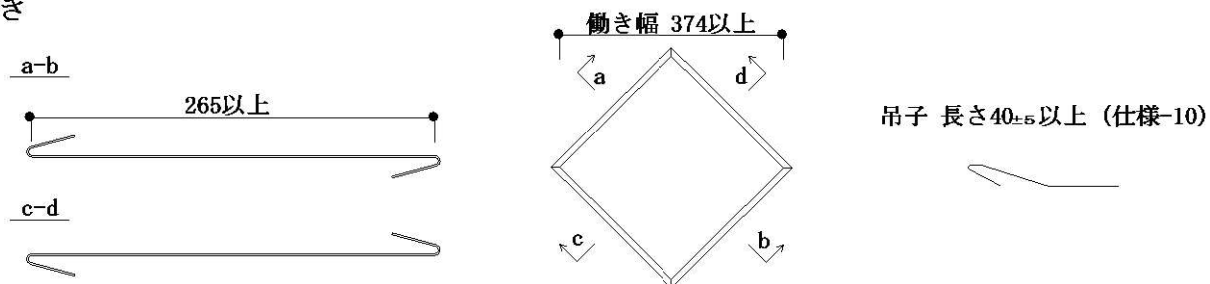
(10) 円筒葺き



(11) 平葺き



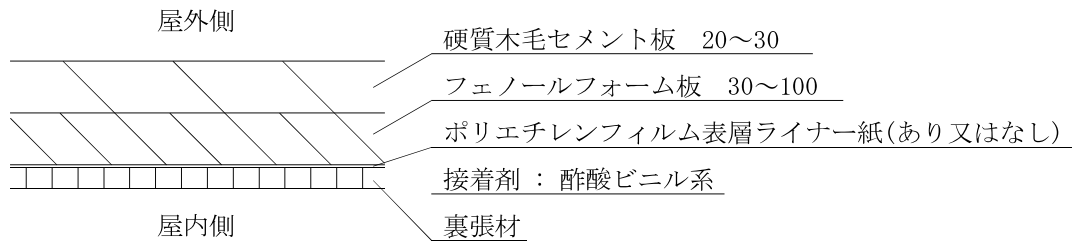
(12) 菱葺き



注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

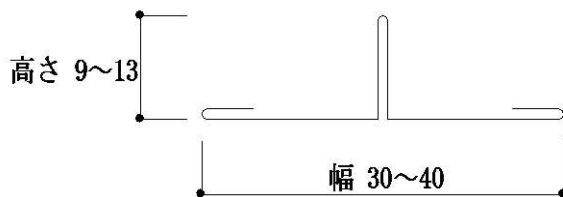
(寸法単位：mm)

[野地板と裏張材の構成]

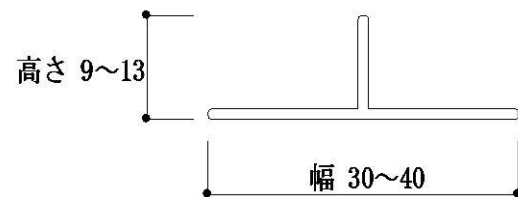


[ジョイナー断面図]

(1) 折り曲げ



(2) 押出形

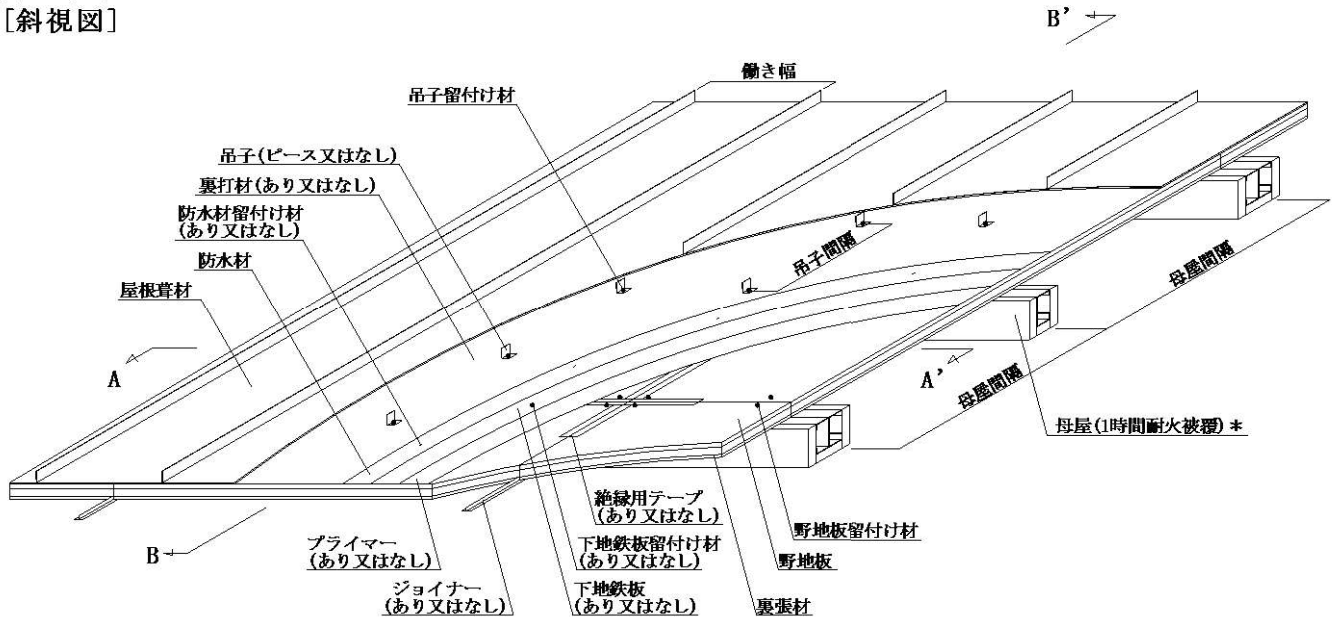


注) 寸法および材料構成は 2 および 3 のとおり

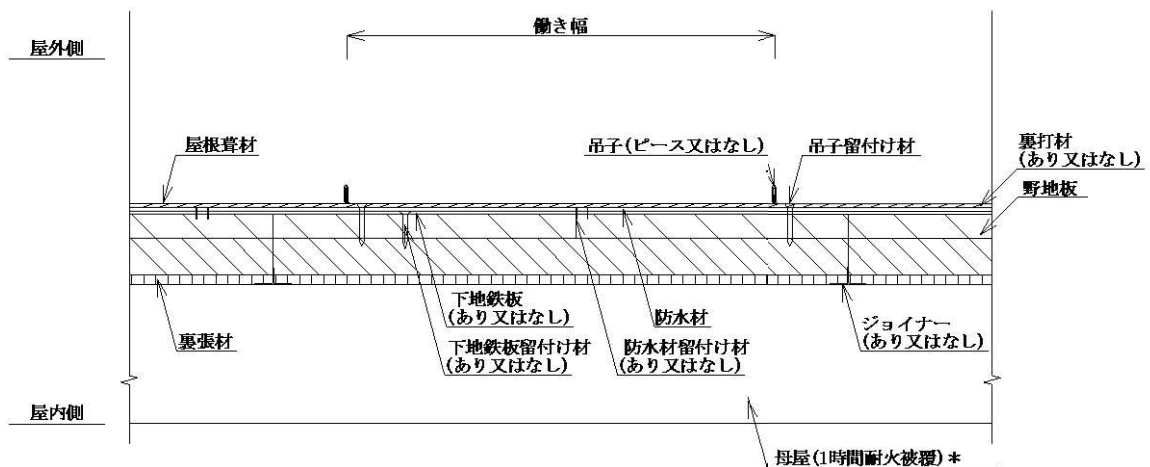
(寸法単位：mm)

(1) 立平葺き

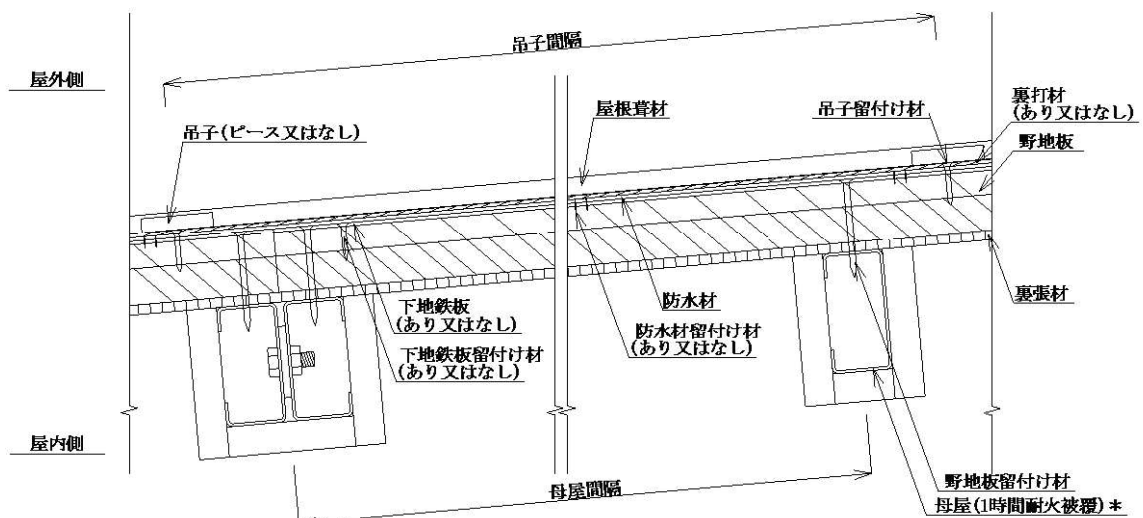
[斜視図]



[A - A' 断面詳細図]



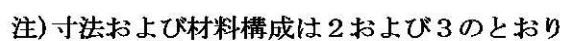
[B - B' 断面詳細図]



注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

*: 本評価内容に含まない

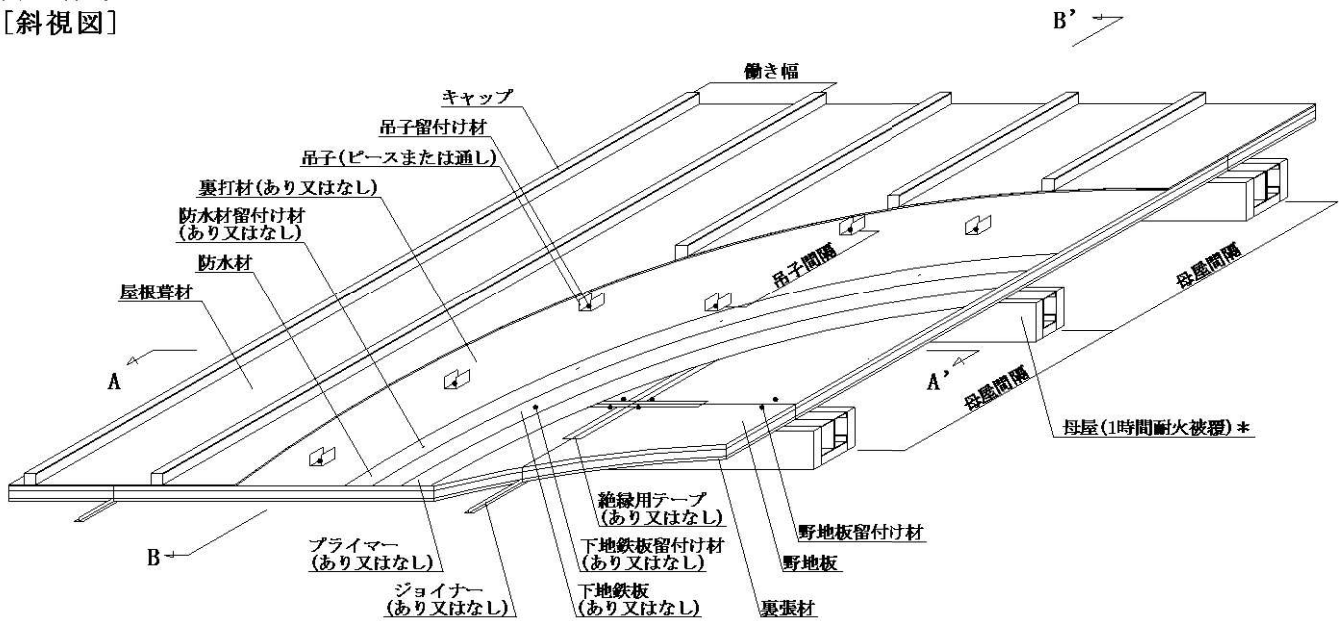
(2) 横葺き
[斜視図]



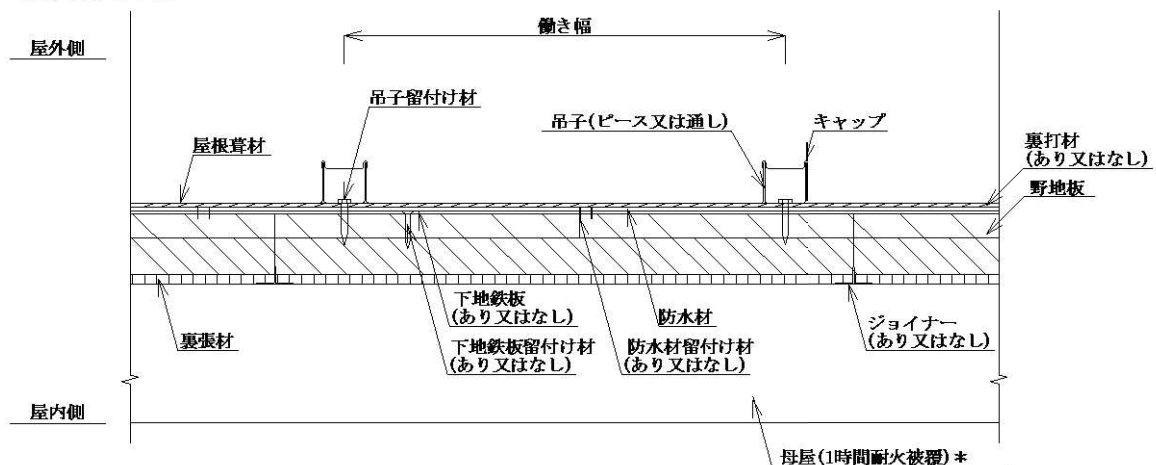
– 15 –

(寸法単位：mm)

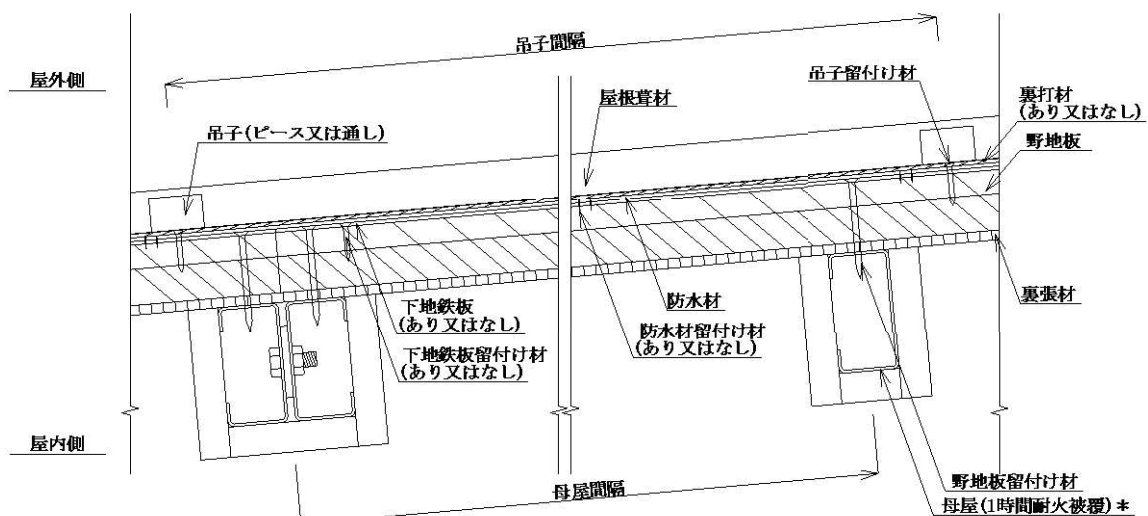
(3) 瓦棒葺き
[斜視図]



[A - A' 断面詳細図]



[B - B' 断面詳細図]

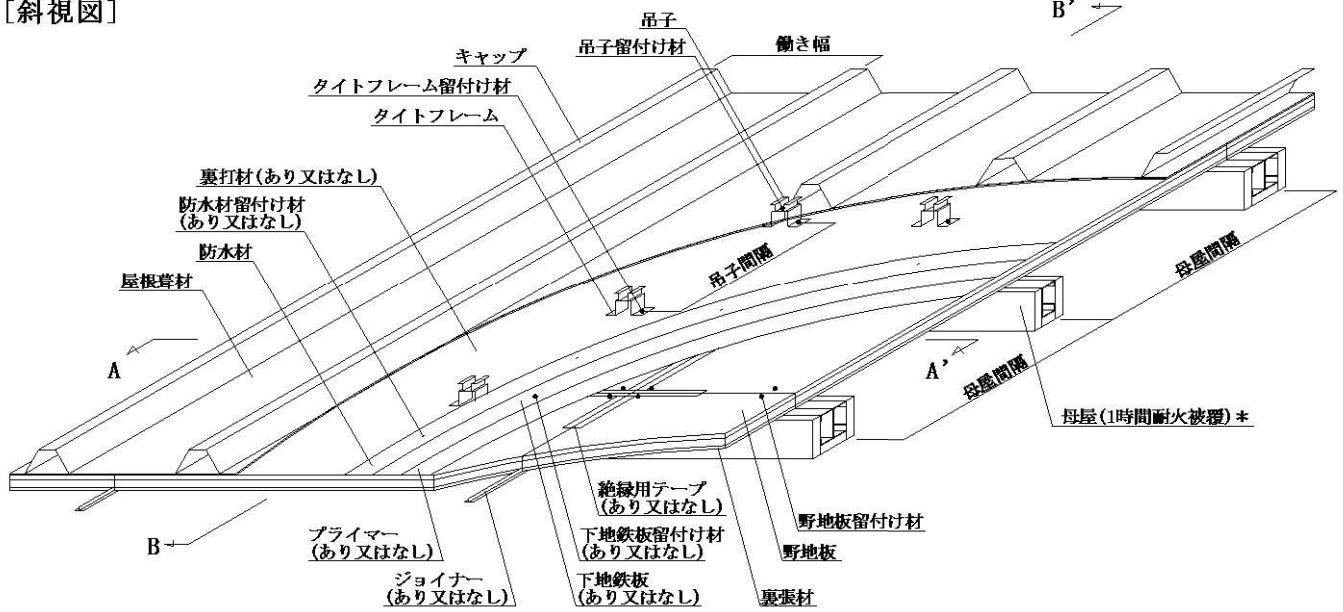


注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

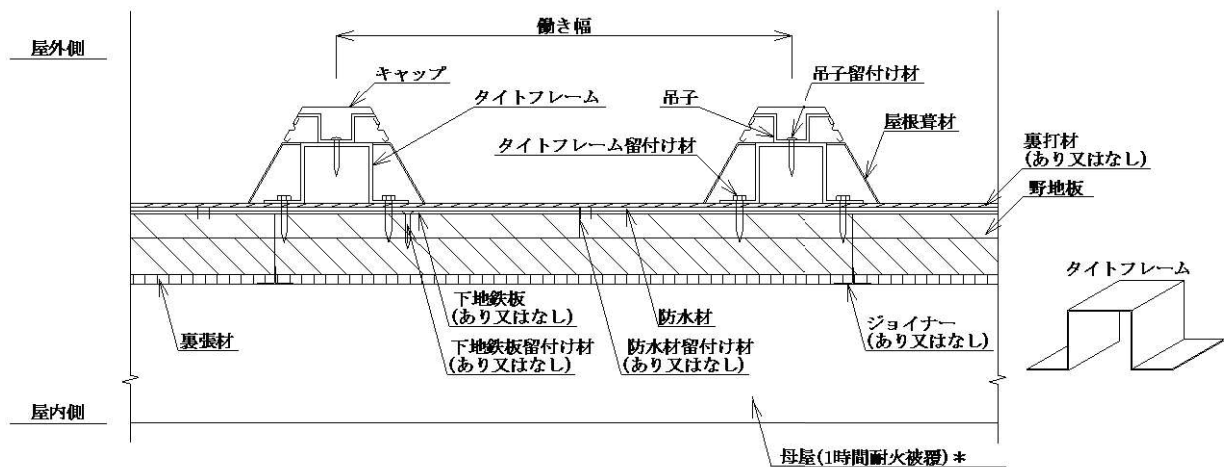
*: 本評価内容に含まない

(寸法単位：mm)

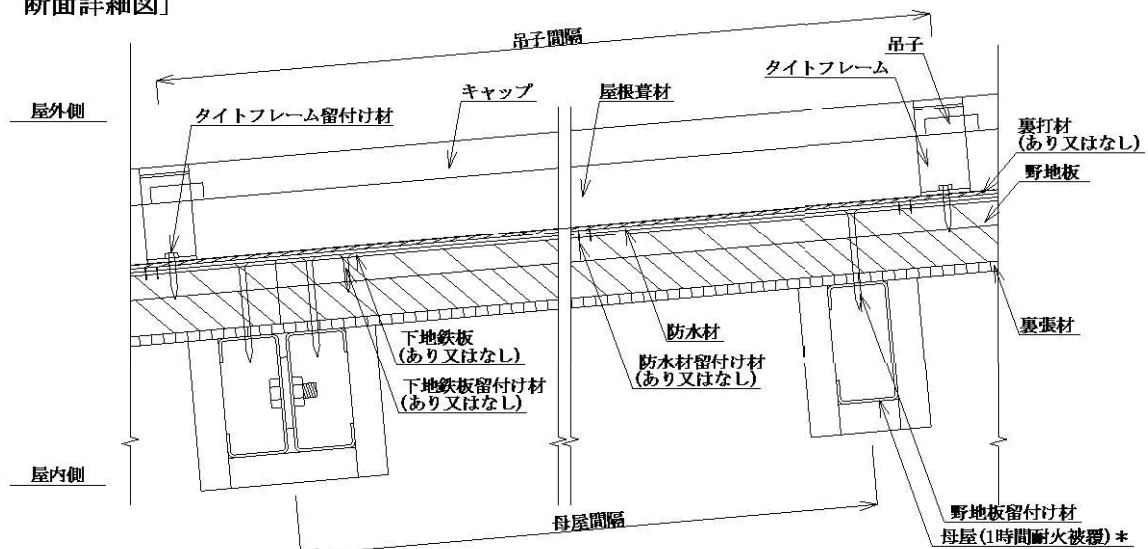
(4) 折板葺き
[斜視図]



[A - A' 断面詳細図]



[B - B' 断面詳細図]

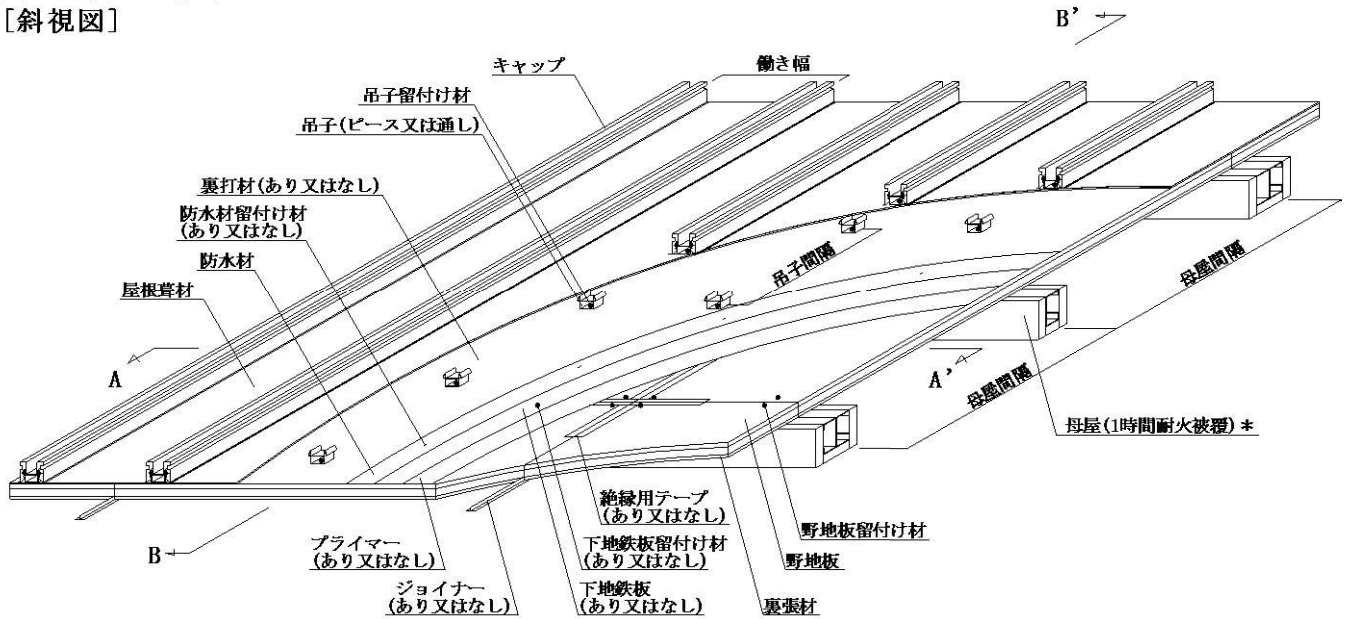


注) 寸法および材料構成は 2 および 3 のとおり

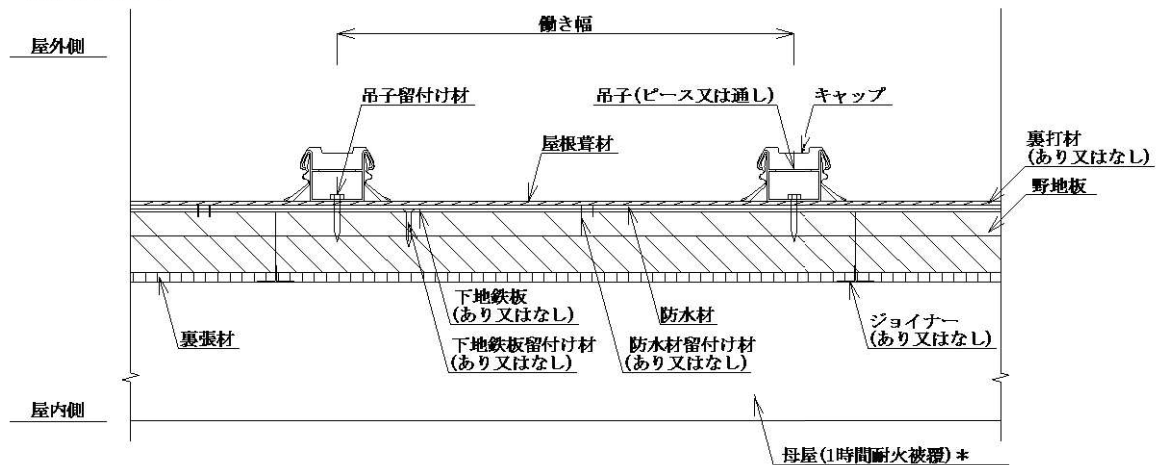
*: 本評価内容に含まない

(寸法単位：mm)

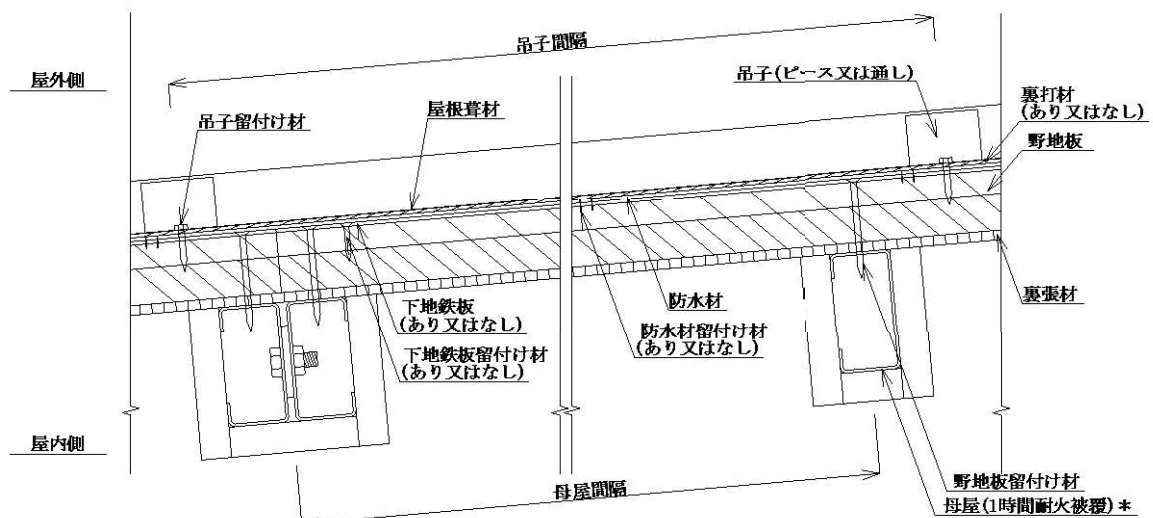
(5)かん合式瓦棒葺き
[斜視図]



[A - A' 断面詳細図]



[B - B' 断面詳細図]



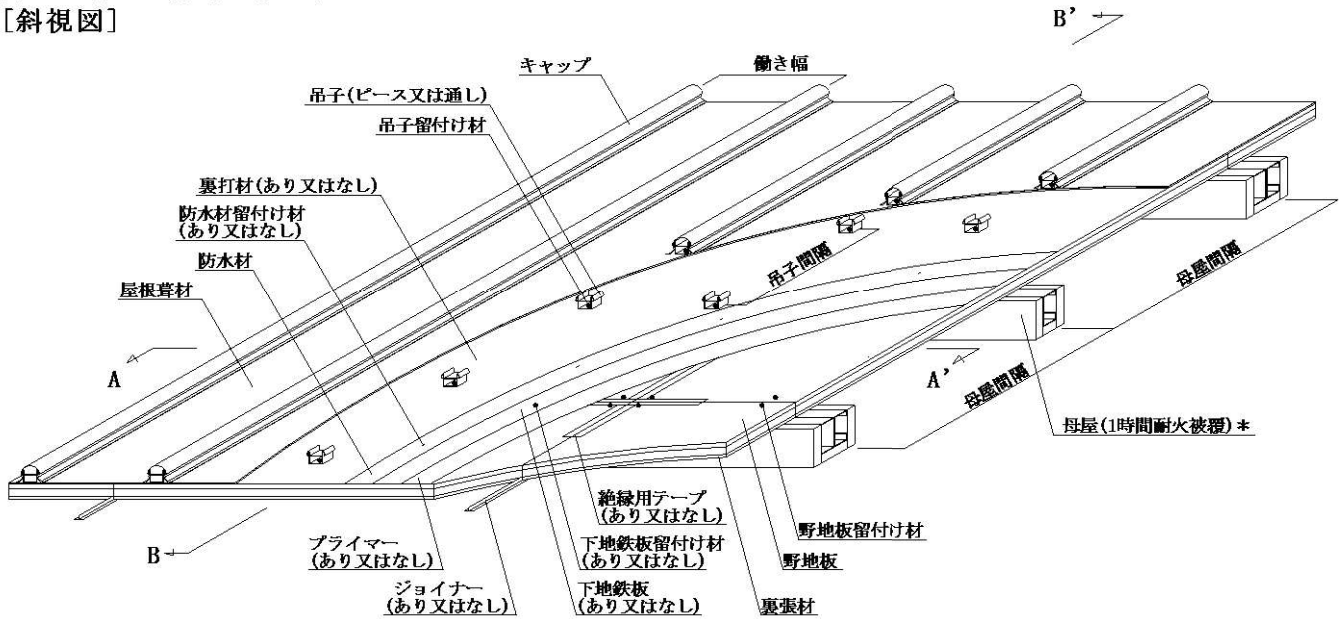
注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

*: 本評価内容に含まない

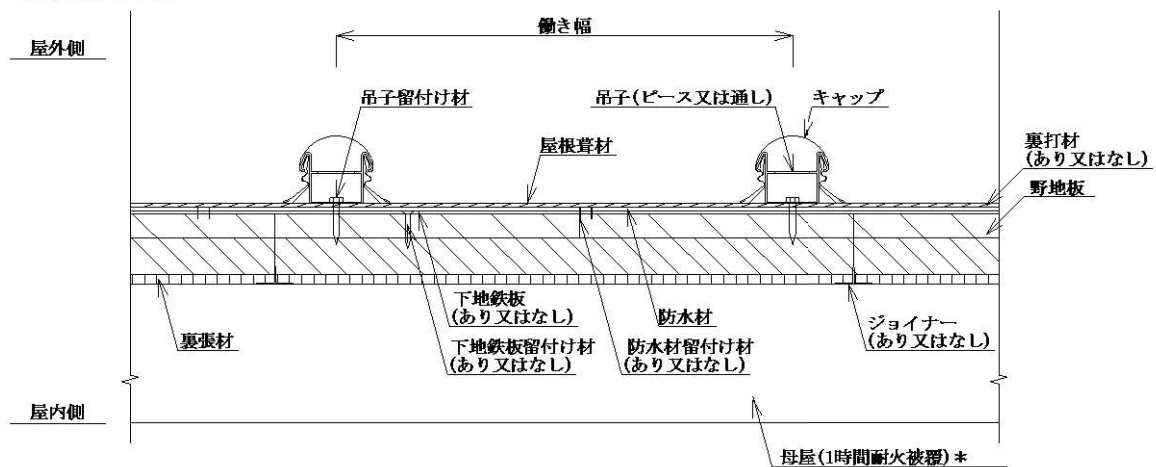
(寸法単位：mm)

(6) かん合式瓦棒葺き(丸棧)

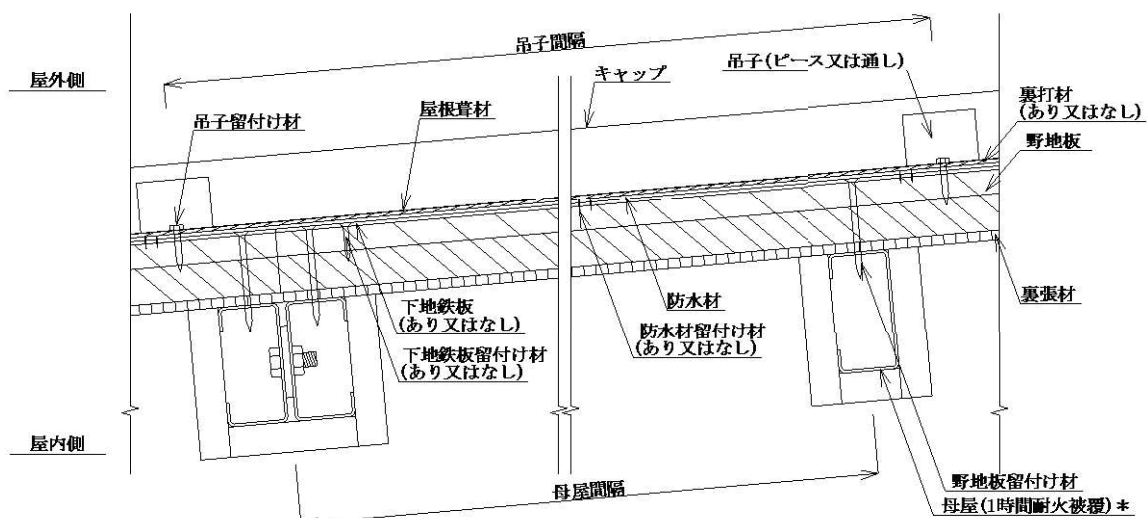
[斜視図]



[A - A' 断面詳細図]



[B - B' 断面詳細図]

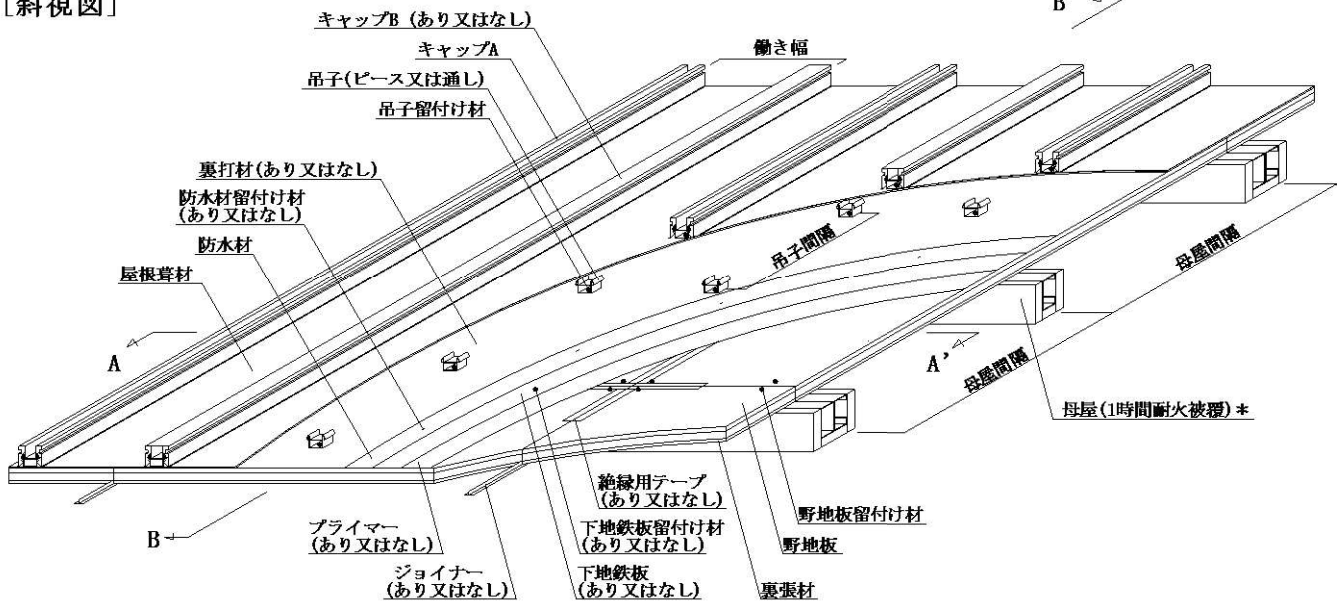


注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

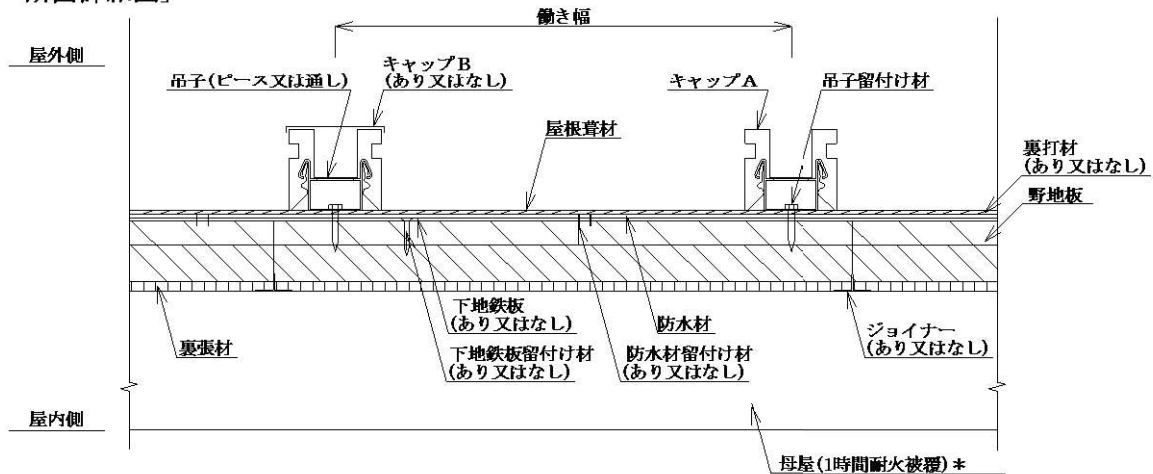
*: 本評価内容に含まない

(寸法単位：mm)

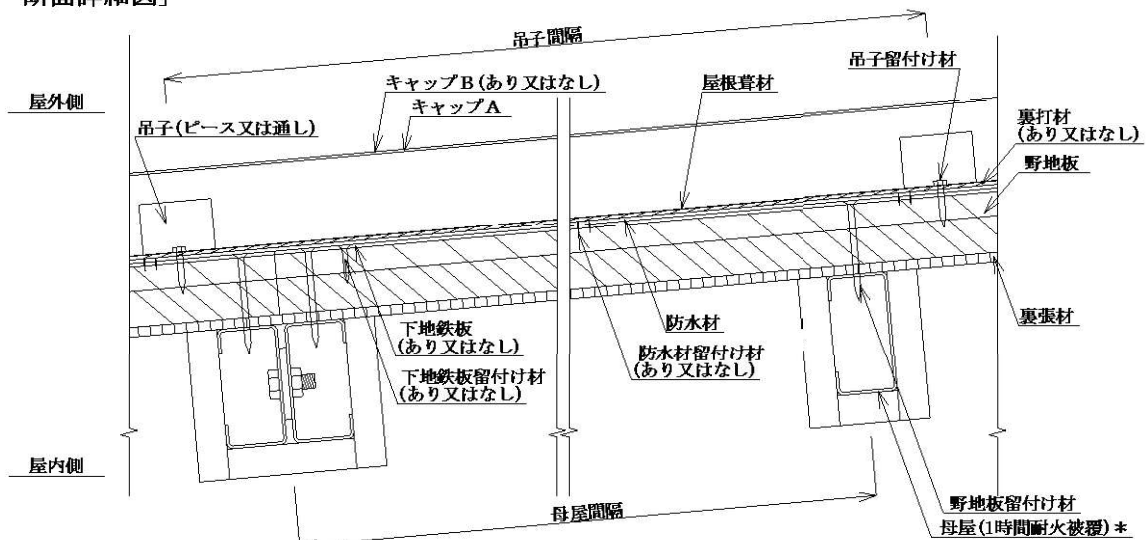
(7) 本体押え込み縦葺き
[斜視図]



[A - A' 断面詳細図]



[B - B' 断面詳細図]

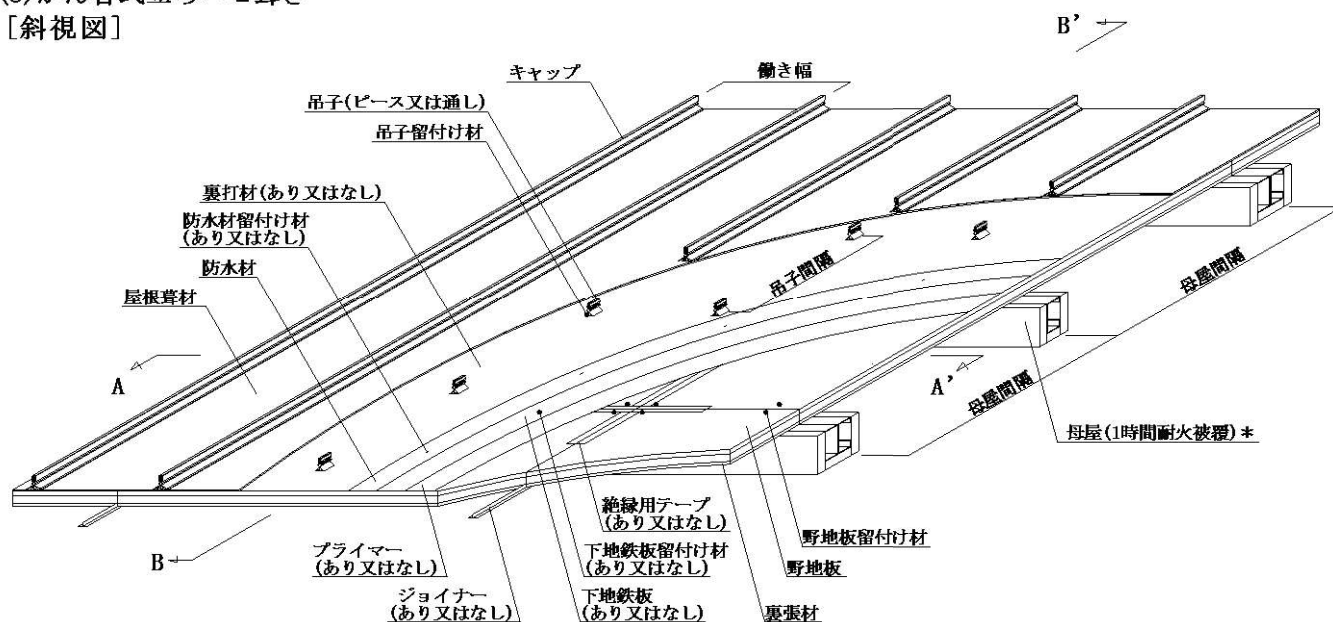


注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

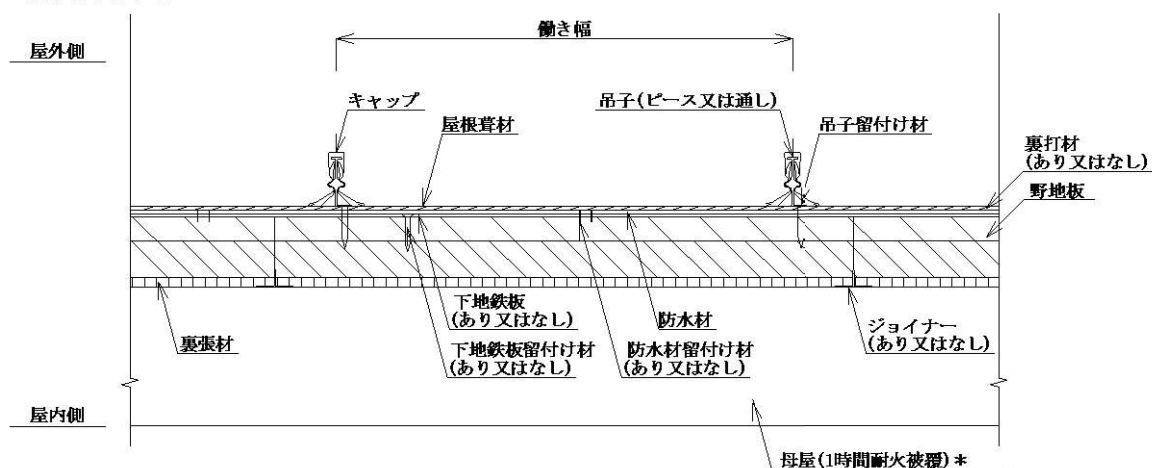
*: 本評価内容に含まない

(寸法単位：mm)

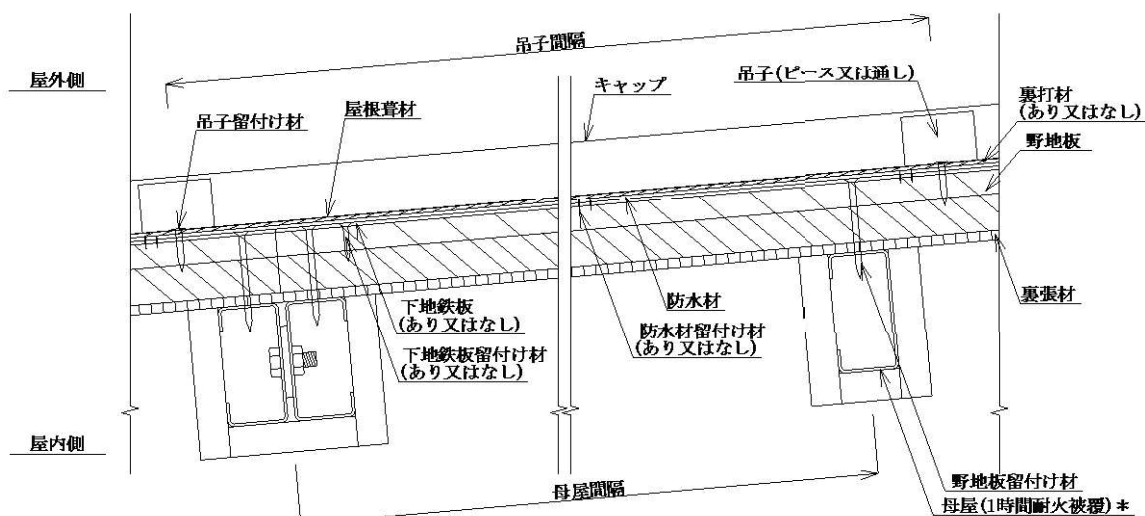
(8) かん合式立ちハゼ葺き
[斜視図]



[A - A' 断面詳細図]



[B - B' 断面詳細図]

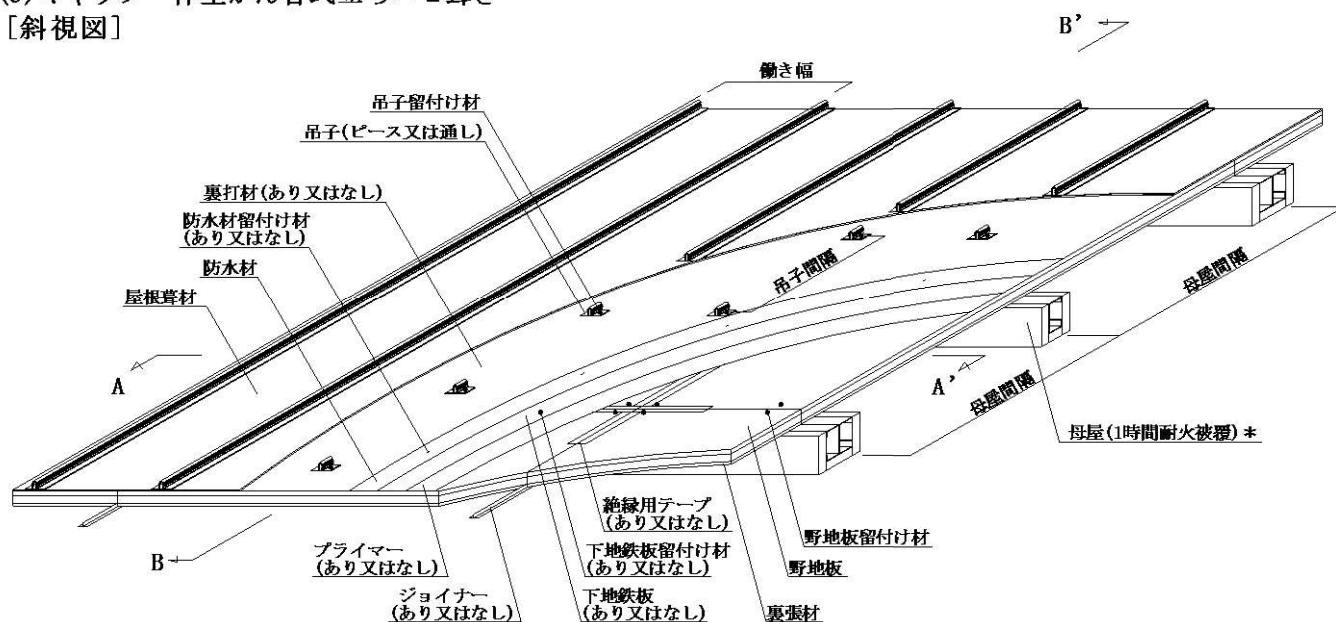


注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

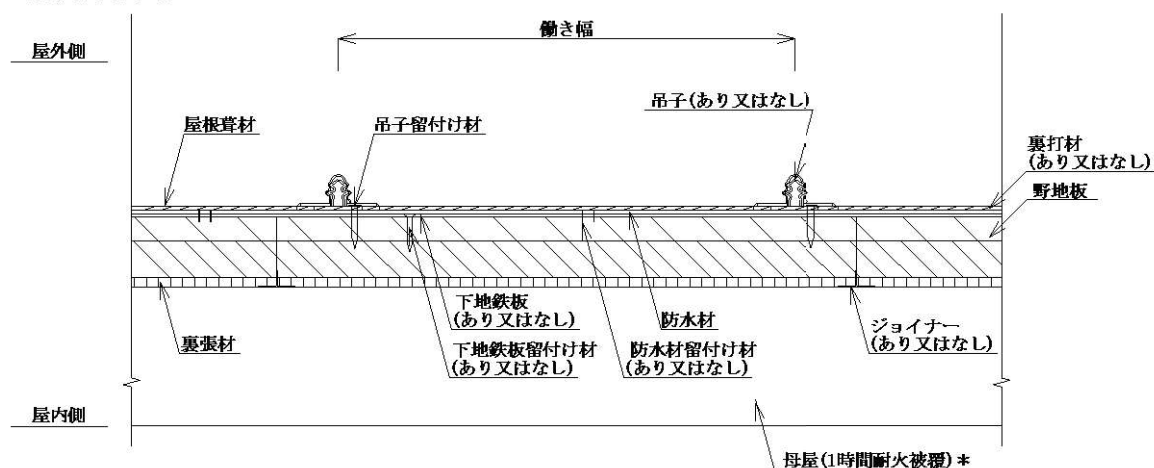
*: 本評価内容に含まない

(寸法単位：mm)

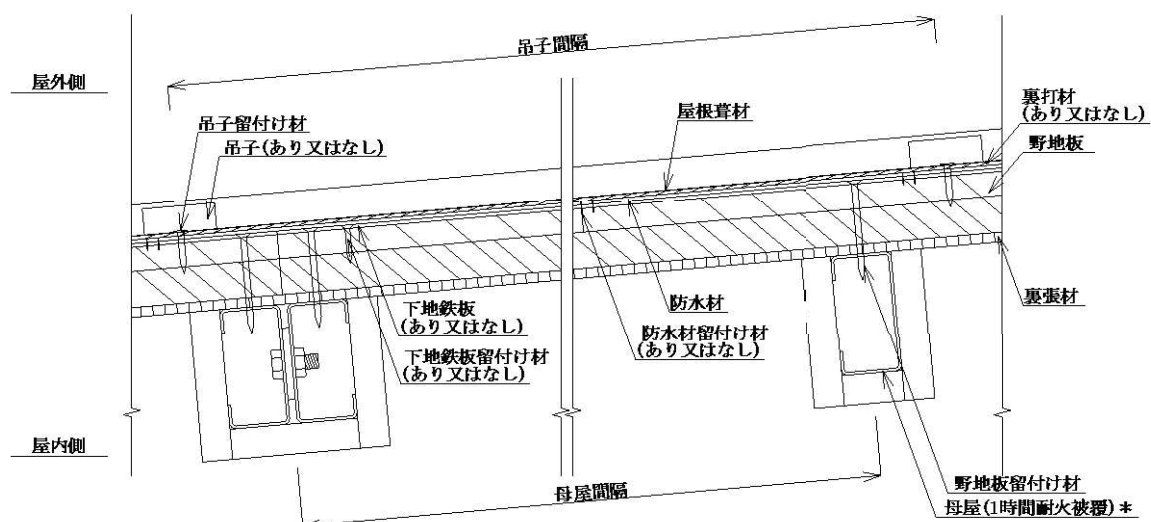
(9) キャップ一体型かん合式立ちハゼ葺き
[斜視図]



[A - A' 断面詳細図]



[B - B' 断面詳細図]

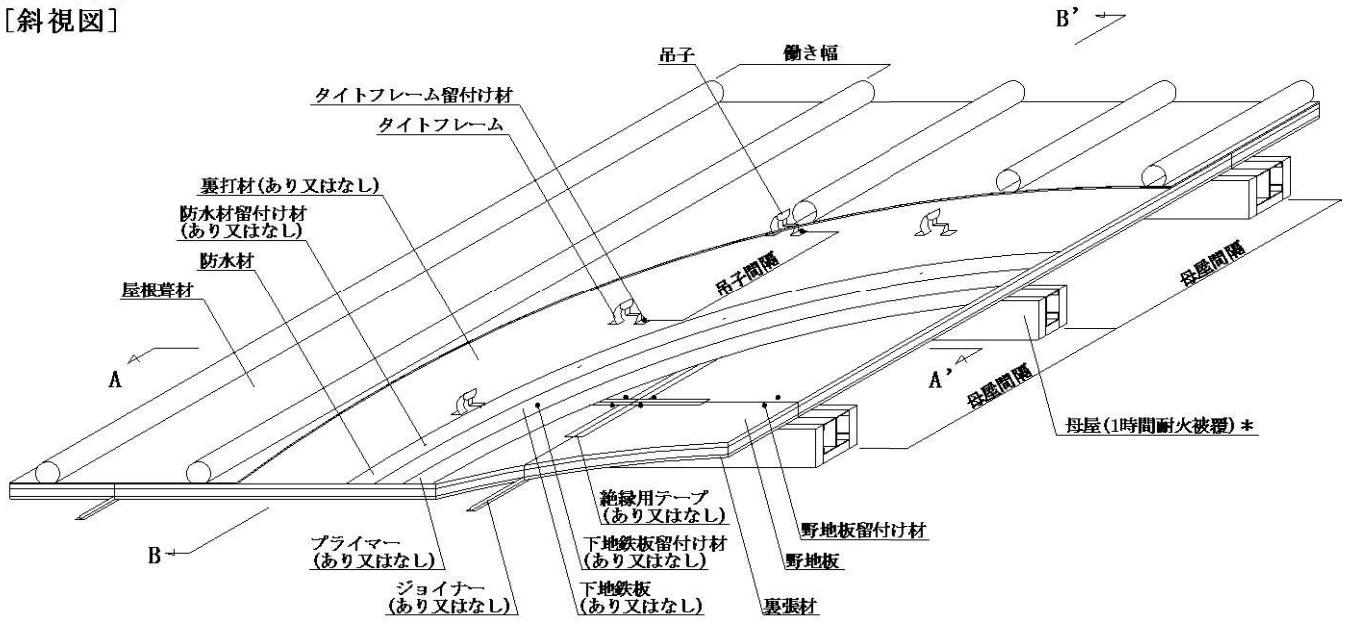


注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

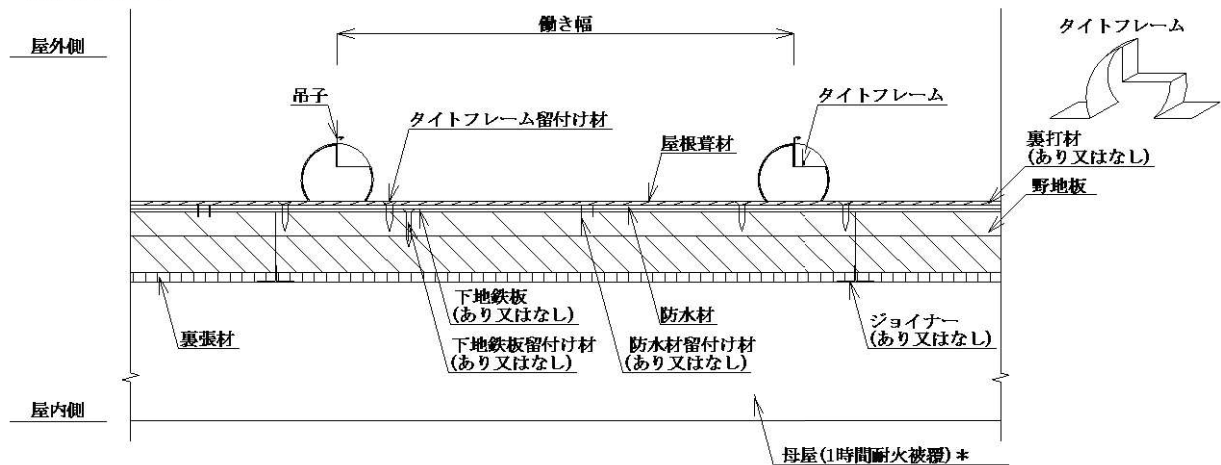
*: 本評価内容に含まない

(寸法単位：mm)

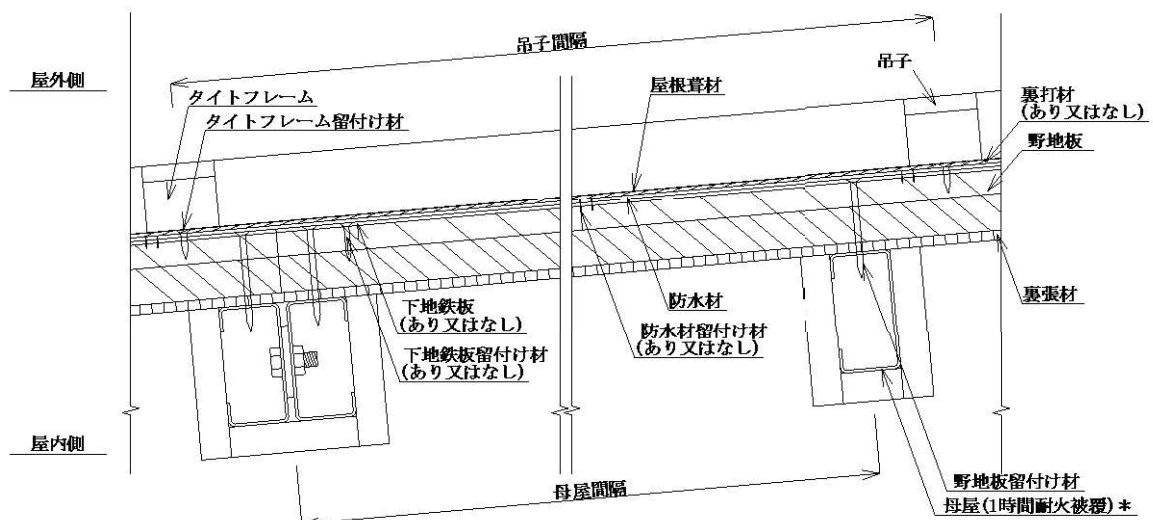
(10)円筒葺き
[斜視図]



[A - A' 断面詳細図]



[B - B' 断面詳細図]

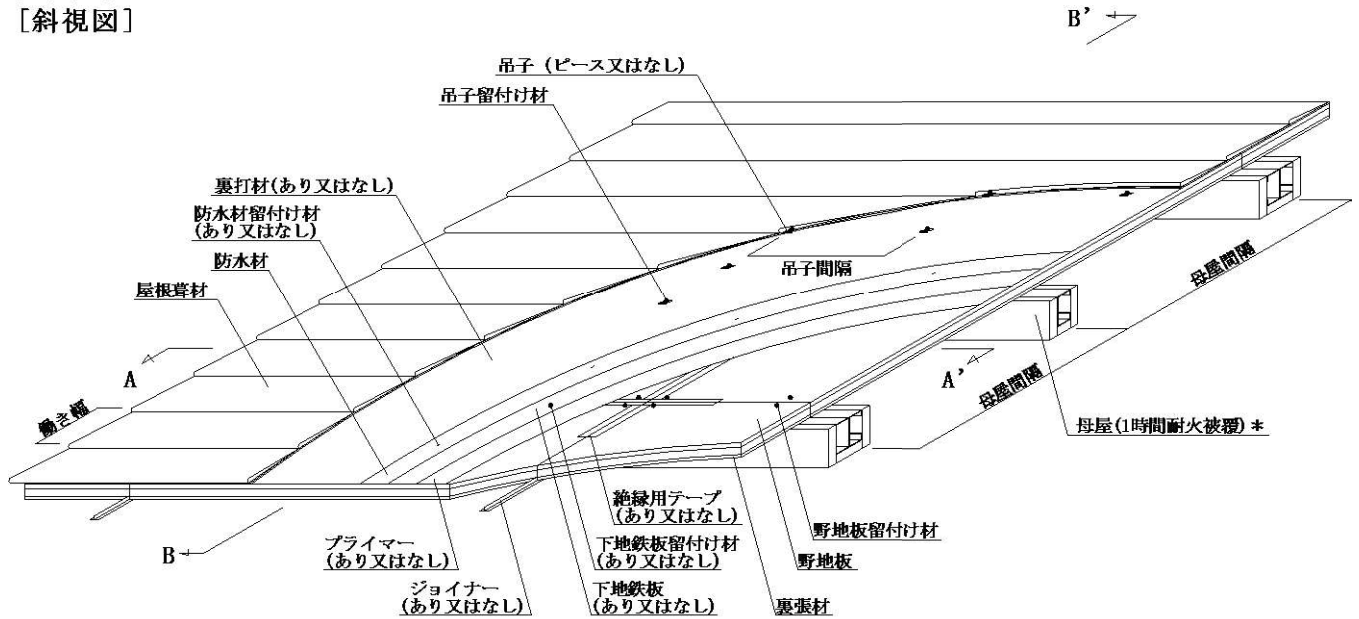


注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

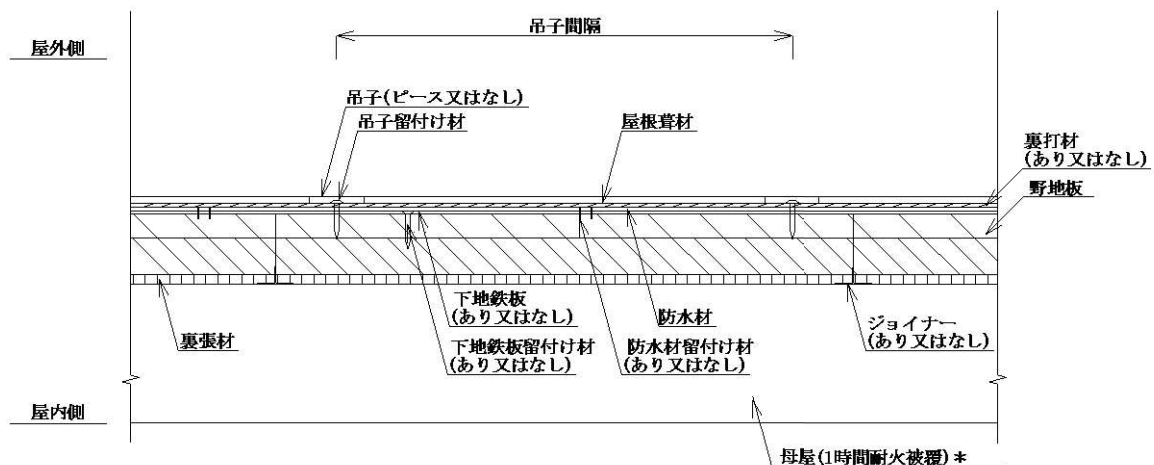
*: 本評価内容に含まない

(寸法単位：mm)

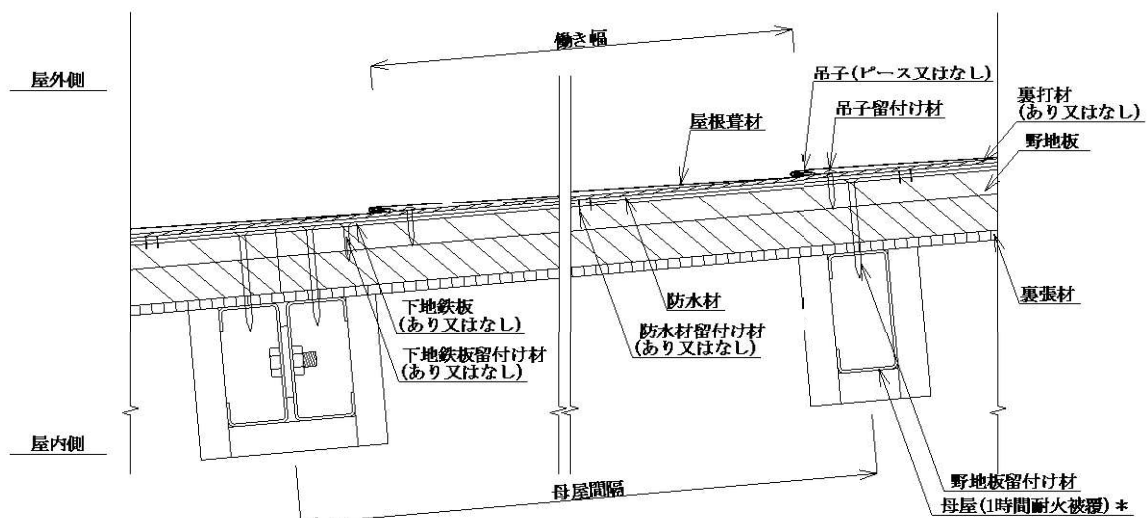
(11) 平葺き
[斜視図]



[A - A' 断面詳細図]



[B - B' 断面詳細図]

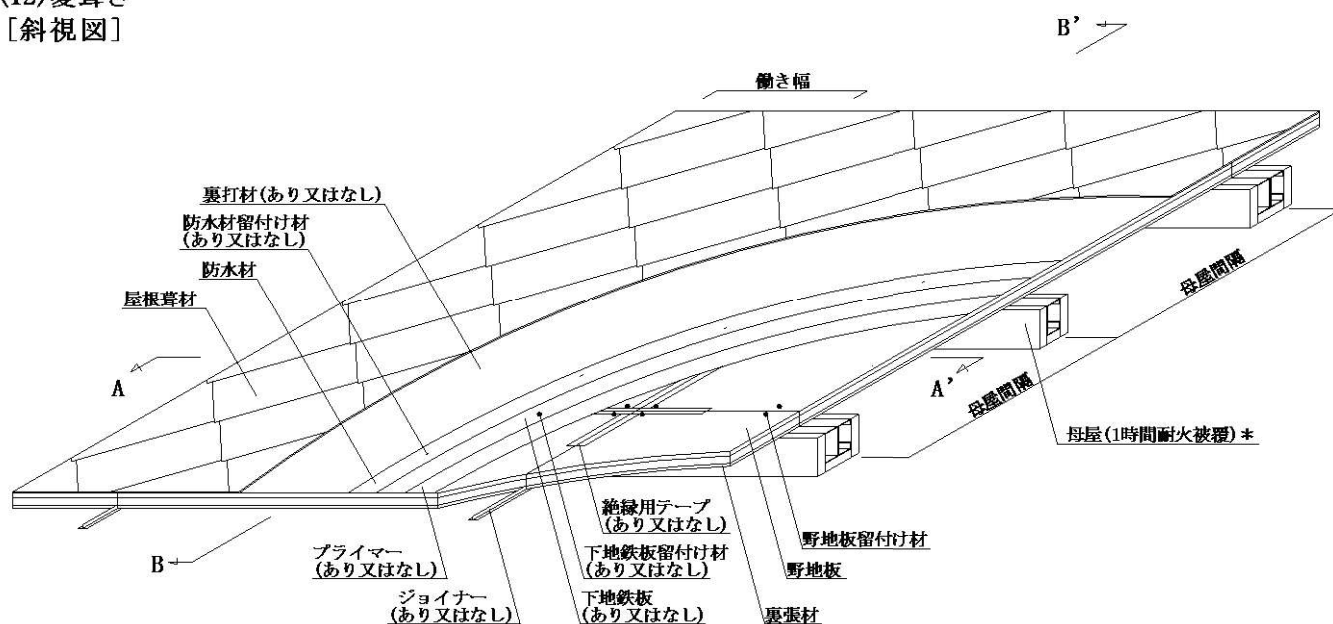


注) 寸法および材料構成は 2 および 3 のとおり

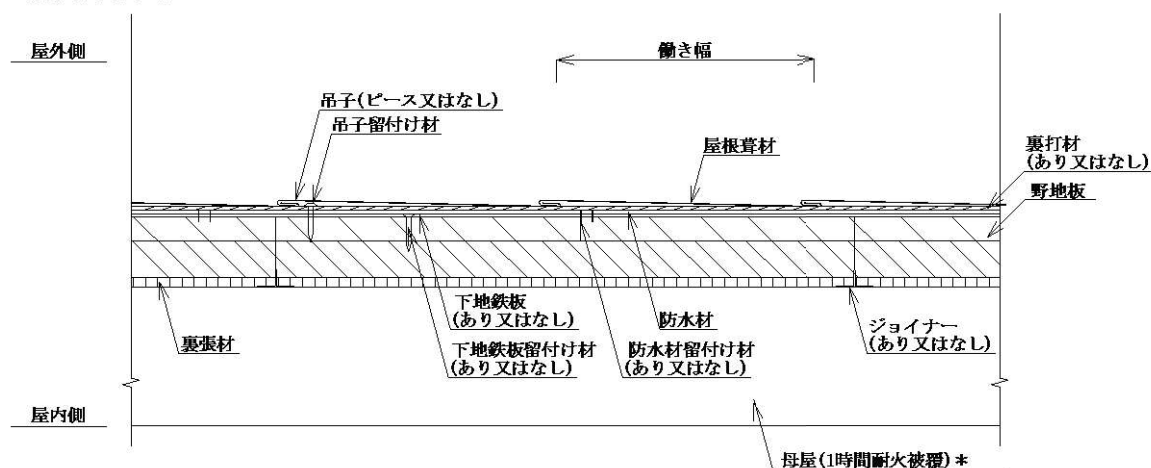
*: 本評価内容に含まない

(寸法単位：mm)

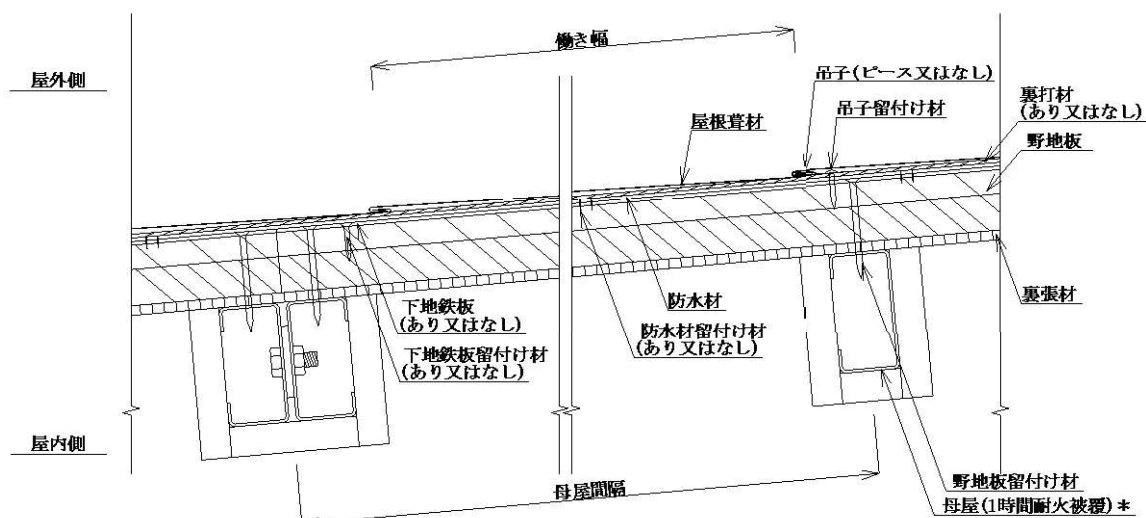
(12) 菱葺き
[斜視図]



[A - A' 断面詳細図]



[B - B' 断面詳細図]



注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

*: 本評価内容に含まない

5. 施工方法等

＜ 施工図 ＞

4. 構造説明図と同じ

＜ 施工手順 ＞

- (1) 母屋間隔は910mm以下とし、平成12年建設省告示第1399号第4第三号ニの規定に該当しない場合には、耐火1時間の被覆を施す。
- (2) 野地板の取付け
 - ・野地板を母屋に合わせて配置する。
(裏張材を、野地板表面に裏張材用接着剤で貼り付ける。)
 - ・母屋上の目地は突付け、母屋と直交する目地にはジョイナー(あり又はなし)を入れる。
 - ・取付けは野地板留付け材を用いて、所定の間隔で母屋に留付ける。
- (3) 野地板にプライマーを塗布する。(あり又はなし)
- (4) 野地板のジョイントに絶縁用テープを貼り付ける。(あり又はなし)
- (5) 下地鉄板(あり又はなし)の取り付け
 - ・取付けは下地鉄板留付け材を用いて、所定の間隔で母屋又は野地板に留付ける。
- (6) 防水材を敷き込む。
 - ・防水材を、重ね代100mm以上となるように敷き込む。
 - ・必要に応じてタッカーなどで仮留めする。
- (7) 屋根葺き
 - イ) 吊子を吊子留付け材で、野地板又は母屋に留付け、屋根葺材を吊子に固定する。
【葺き仕様：①立平葺き、②横葺き、③瓦棒葺き、⑤かん合式瓦棒葺き、⑥かん合式瓦棒葺き(丸棧)、⑦本体押え込み縦葺き、⑧かん合式立ちハゼ葺き、⑨キャップ一体型かん合式立ちハゼ葺き、⑪平葺き】
 - ロ) タイトフレームをタイトフレーム留付け材で取付け、その上に吊子を吊子留付け材で留付ける。
屋根葺材をタイトフレームと吊子に固定する。
【葺き仕様：④折板葺き、⑩円筒葺】
 - ハ) 屋根葺材を直接屋根葺材留付け材にて、野地板又は母屋に留付ける
【葺き仕様：①立平葺き、⑨キャップ一体型かん合式立ちハゼ葺き】
 - ニ) 屋根葺材を裏張材にて、野地板に圧着する。
【葺き仕様：①立平葺き、②横葺き、③瓦棒葺き、⑧かん合式立ちハゼ葺き、⑨キャップ一体型かん合式立ちハゼ葺き、⑪平葺き】